
Das Ohr! (ダス・オーア)

フェルメン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Das Ohr! (ダス・オーア)

【著者名】

フルメン

【ISBN】

9781430

【あらすじ】

Das Ohr! = ドイツ語。日本語で「耳」という意味。あたしは、鬱病。だけど負けたくない。こんな病気なんかに。

第一話（前書き）

半分実話です。。

第1話

昨日は、大量に酒を飲んでしまった。

もう起きなくていいって思った。

こんなとこ

大嫌い。

お酒はまずい。

でも死ねるなら

我慢して飲むよ・・・・・

朝（前書き）

あれ、あたし、生きてる・・・！？

「なんでお酒飲んだのか」

とかなんとか。

両親がどたばた部屋に入つて来て騒いでいた。

あたしは、寝たふりしていたのか

本当にどこか遠くへ行っちゃいそうだったのか。

それすら分からず

薄ら笑い。

昔もよくこなことあつたっけ？

中学の頃から自殺未遂したり、お酒飲んだりして

泣けないあたしは

1人部屋にこもり、鍵をかけ

この世から旅立とつとした。

お父さんが

「やめやめー。」

つて言つて

お母さんが声を上げて

「私のせいね」

と泣いた。

あれから何年？

高校も卒業したけど、あたしはフリーターのまま。

自分をうまく表現できず、もがいてる。

人とケンカしたら言い返せなくて

音楽にぶつけた。

悔しさ、憎しみ、そして失恋した時はその男への愛情・・・。

ただ、自分の愛し方は今まで学んだことがなかった。

昨日の夜はね、ライブの打ち上げの飲み会とは違うんだ。

いじめに耐えられなくなつて死のうつて決めた。

携帯で泣きながら文章をみんなに送った。

「今から死ぬ。ごめん」

携帯が鳴つてた。

その音が段々遠くにいった。

涙が溢れた。

苦しくなると

実感がわいてきた。

・・・・・ あたし、今度こそ本当に死ぬんだなあ・・・・・

あたしが死んで、この先ずっとみんなが

あたしを傷つけた人が

何年経つても

「あいつ、死んだんだ」

「自分のせいかも」

つて

罪悪感とかさ

反省とかしてくれたら

それでいい

バンプ・オブ・チキンの “K” という歌をガンガン流して

泣き声をもみ消した。

あたしも

あたしにも

クロネコがいるよ

すぐとなりに。

そのクロネコはKといつて

あの歌と同じ歌詞で

似てる性格なんだ

今、あたしのくは

背中であたしの涙を感じてる

ねこは

水が苦手つて虹のこ

我慢して

背中を貸してくれてるんだ

おやすみ、あたしのく。。。。。

こんな飼い主でじめんね

「なんでお酒飲んだのか」

とかなんとか。

両親がどたばた部屋に入つて来て騒いでいた。

あたしは、寝たふりしていたのか

本当にどこか遠くへ行っちゃいそうだったのか。

それすら分からず

薄ら笑い・・・・・

せめてしまつた（繪書き）

死ぬはずだつたけど
生きてこゐあたし・・・

生きてしまった

「キリロ、起きた？ よかつた

あたしが田を開けて覚えているのは
お母さんのその言葉だけ。

後は、よく思い出せない。

朝になつたみたい。

ぐっすり寝てたみたい。

起きたら、また涙が止まらなかった。

死ねなかつた・・・・。

今度こそ本当に死ぬと思つて

お酒飲んだの。

生きた「ひびき」が何?

なんて想像してなかつた。

いや、でも

心の「ひびき」かで考えたんだ。

一瞬だつたけど。

「もし、今度病院に行つて先生に会つたら、何て説明しよう?」

「救急車で運ばれるとしたらお財布とか用意しなきゃ...」

「あ、入院するとしたらお財布とか用意しなきゃ...」

心の中では「もしも 再び 息をした場合」

を想定していた。

本当に死にたいと思いながら、

生きたいとも望んでいた。

そりゃ

できぬものなり

生きたいよ。

樂しこことだつてあるだろつからね。。。。

例えば？

何かの映画で聞いたことがある。

確かウーピー・ゴールドパークが

「死にたい」といつ子供にいつ言ったの。

「本当に死ぬの？ もつたいない！」

あなた、31（サーティーワン）のアイスの味、全部知ってる？

全部名前言える？

あたしはあの味を全部食べるまで死なない！」

何の映画だったか忘れたけど

たしかに

人生には楽しいことも待ってるのかも。

お母さんが、何かあたしに話していた。

あんまり覚えてない。

友達のエイコが、何度もケータイの留守電に伝言入れてた。

それにメールもきてた。

『キリちゃん、なんで!? どうしたの!? 連絡ください』

エイコから、このメールが何件もきてた。

留守電の声は震えてた。

今日生きると思つていなかつたから

あたしは一日中、ぐうたらしてた。

何かしなきやと思つながら・・・・・・。

遠距離恋愛（前書き）

遠距離恋愛のカレから連絡が・・・。

『…………』

ケイタイのメールが鳴った。

遠距離恋愛中のカレからだつた。

『キリ、連絡ないけど、どうした！？ 心配だよ』

男性不信のあたしは、

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

と心の中で呟びたくなつた。

電源を切つた。

・・・・・じぱりくして、また入れてみた。

メールがきた。

力レからだ。

『今、仕事中なんだけど、キリからメールこないから心配だよ。いつもこの時間にメールくれるよね?』

あたしのこんな姿見たら、あなたは

別れようつて言つたじゃない!?

今まで付き合つた人からも言われたもん。

「そんな病気の人、恐い」

「鬱病? 犯罪とかすんの!?」

「自殺するとか、引くよ・・・」

1ヶ月前から付き合い始めたカレ。

友達期間は2年。

同じ年とは思えないくらい大人なの。

仕事熱心で

完璧っぽくて

『あー、仕事うまくいかない。どうしようつ・・・』

つて、あたしに弱みを見せるところが可愛い。

遠距離だから滅多に会えない。

でも毎日チャットで会話してる。

カレからは

まだ

「愛してゐる」って言われたこと無いんだ。

カレは

「愛してゐるって簡単に口元にしたら

その価値が薄れてしまつ」って・・・。

あたしは早く聞きたいと泣きじやくつたこともある。

それでもカレは頑固。

《まだ言えない》

つて言つた。

今まで付き合つたカレは、

あたしが

「愛してゐるか 聞いて？」

つてお願いしたら

簡単に

「愛してゐるよ」

つて聞いたくれた。

他に何も要りなくて

その言葉を聞くと幸せになれた。

カレに言つたことがある。

「今までの彼氏は、愛してゐるか 聞いてくれたもんー。」

力
レ
は
笑
つ
た。

『でも実は愛されてなかつたんでしょ?』

『嘘でもいいから、言われたい？

老朽ともが三回心から語れれまい。

あたしはRomanticな恋愛がしたい。

だから答えた。

「嘘でもいい。愛してるって言つて欲しい」

力レは驚いてた。

『嘘でもいい？』
『へえ。そりなんだ・・・・』

あたしは言い張つた。

「そうだよ。それが女心だもん。
あなたは女心、全然分かつてないね。
あたしもトラウマあるし男性不信で
愛されたことないかもしけないけど、
それはあなたも同じじゃない！？」

カレがしばらく沈黙。

そして言った。

《実は、俺も女性不信なのかも》

遊んでるんでしょう…？

べつね。

男の人つて

簡単に遊べるからいいね！

女は妊娠させられたら・・・・。

責任負わなきやいけないけど

男は逃げればいいだけだもんね・・・・。

カレが女性不信だなんて信じなかつた。

カレはあたしにとつて賢くて

ルックスもそこそこで

優しい。

それに・・・

ドイツ人。・・・・。

ドイツに住んでて働いてる。

遠距離の彼女がいて、遊ばない白人っているの！？

あたしは分からぬよ。。。

（アリヤ）（あたしの場所）（記憶）（アリヤ）

あたしは今もトライアードと戦っている。

2007.10月8日（月） 19:20

文章がめちゃくちゃだったりみんなで
あたしはトライアード
脅えて日々を過いでいるから。

トライア　（あたしの場合）

トライア・・・・・。

あたしは自分を完全に見失っていた。

そんな時、カレから

パソコンにメールが届いた。

2007年、8月中旬のことだった。

キリヘ。

日本に行く。会いたい。体調がいいなら、2人で旅行しよう？

体調悪かつたら、無理しなくてもいいよ。

あたしのために

わざわざ

ドイツから日本に会いに来てくれる。

体調は最悪だけど

会いにこした。

今回を逃したら、今度会えるの

いつか分からなかつたから・・・・・。

カレと会いにこした。

大阪で会いにこした。

時間は夜8時。

沢山の荷物を抱えたカレは、時間通りに来ていた。

『会えて嬉しい』

お互い、言葉が重なつて

ちょっと恥ずかしかつた。

いつだつたか、カレとチャット中

『国籍に関係なく、遊ぶ人は遊ぶし

まじめな人はまじめ。でしょ?』

こんなメッセージがきた。

そんなの

頭では分かってるよ…………。

「俺は遊び人じゃない」

と言つて

それを信じて

あたしは 何度もだまされた。

みんなは言つ。

「だまされるお前がバカだ

つて。

その日から あたしは決意した。

感情を殺すこと。

好きって気持ちも 楽しいって気持ちも

悲しいって気持ちも 全部。

ただ一つ消せない感情があつた

それが 憎悪。

トライアは数多くある。

アムカした時の傷より、もっと深い。

あたしは今まであたしを傷つけた人が憎くて

カレにハツ当たりしてた。

旅行中、昼間はハイテンション。

夜はトライアウトと悪夢にうなされた。

カレは、どんな時も話を聞いてくれた。

あたしが〇〇しようとしても

逃げなかつた。

実際目の前で〇〇しても、

冷静に受け止めた。

『薬は2、3個で充分でしょ』

カレはそう言って、大量に水を飲ませた。

あたしは英語で叫んだ。

” I want more medicine!! (もっと薬が欲
しい) ”

病院で処方された薬。

カレは

落ち着いた声で

『もう薬は飲んだよ。何個飲んだ?』

と尋ねた。

あたしは泣き叫んだ。

「足りない！ トライアウスマが消えない。

過去のことが消えない！

恐い。

不安。

薬ちょうどいい……」

カレはちょっと大声で言った。

『もう充分飲んだ。不安があるなら、外に出して！
全部聞くから』

薬物中毒みたいになつた私の体を

カレは抱きしめた。

薬を欲しがるあたしの体を

力強く・・・・・。

『大丈夫。大丈夫だから

今、何が頭に浮かんでる?』

カレは、ゆつくつとあたしに尋ねた。

頭に思い浮かんだのは

悪い思い出=トラウマ。

あたしは、身が凍えた気がした。

そしてまた暴れた。

「言いたくない！　思い出したくない！」

カレは

『1回外にその感情を出して。少しづつでいい。

そしたらアラウマは消えるから』

悪い靈に取り付かれたみたいなあたし。

思い切り騒いで

薬のせいで眠くなつて

涙が頬をつたつた。

といへんとした目。

自分で分かった。

あたしは

カレの耳を触りながら英語で尋ねた。

「”耳”は、ドイツ語で何ていつの?」

カレは答えた。

《Das Ohr だよ》
ダス・オーハ
だよ》

カレの耳に触れていたあたしの手を

上から優しく

包み込んでくれた。

カレのあたたかくて

大きな手で。。。。。

ダス・オーア か・・・・・。

あたしは

「ふふ・・・・」

と笑つて

そのまま眠つたみたい。

本当はホテルのチェックアウトの時間。

せっかくの旅行なのに

昼はラブラブ

夜は暴れて

カレにとつて散々な旅行になってしまったかも・・・・・。

あたしは

素直になるのは

嫌いなんだ。

自分が傷つくのはもうイヤだ。

あなたに好きと言ったくても

ありがとうと言いたくても

言えないんだ。

感情を殺すと決めたんだ・・・・・。

だけど

「ありがとう」の感情が蘇つた。

「感謝」と「悲しみ」

過去を思ふ出でかへ

今

あなたは

あたしを泣かせてる

そんな男、

今まで会ったことないよ。

アンタ・・・・・・

最低だよ・・・・・・

だけど

全部の感情を

あなたにぶつけたら

心地よくなつて

「うとうと……。

何度も途中で目が覚めて暴れた。

カレは「何が頭に浮かぶ? 言つてみて」と忍耐強く聞いてくれた。

あたしは単語だけ言つた。頭に浮かんだものを

英語でも日本語でも……。

『夜中でも、日本にいる間は傍にいる。

恐い夢を見たら、抱きしめるから。』

感情と一緒に外に出す練習をしようね。』

その言葉を毎晩言つてくれた。

まるで

おまじないであるかのよう。・・・・・。

あたしは少女に戻つた氣分だつた。

安心して眠りなさい

大人に言われて

そのまま眠る

素直な女の子みたいだつた・・・・・。

#N#Cの物（前書き）

夏休み。

カレとの楽しい日々は、あつとこひ闇に過ぎていった。

そしてカレがドイツに歸る日・・・・・・

2007年10月8日（月） 23:29

（回想文。あたしは今、憂鬱のまま）

ね阿尔二の物

旅行中、

カレと色々な話をした。

日本について。

ドイツについて。

日本製品、ドイツ製品について。

それからもう互いの共通の趣味である『写真』について。

あうちの色んな写真を撮つて

見比べた。

数ヶ月前、

あたしが

「花火大会に行きたい」

と言つたことを

カレは、覚えてくれていた。

カレにとつては、有給休暇で

夏休み。

あたしたちは

肩寄せ合つて

一緒に花火を見た。

それが

この夏、一番の想い出。

カレがドイツに帰るところへ、

あたしは泣いた。

今まで

夜になつて

不安になつて

暴れたときは

いつもそばにいてくれた人・・・・・。

これから夜

また1人になるんだ・・・・・。

そう思うと 淋しかつた。

あたしは最後の日、

朝から暴れた

「あなたが帰るなんて、 考えたくない！！」

大泣きして

薬飲んだ

ホテルのチェックアウトの時間を過ぎると

フロントから電話がかかってきた。

カレは

あたしが気分が悪いから延長させてくださいと

英語で頼んでくれた

《時間は、まだある。だから落ち着いて。
ドイツに帰るけど、逃げない。》

これからも連絡をとるから》

カレは言った。

「そんなの信じないーーー。」

あたしは叫んだ。

『時間はあと少ししかないんだよ。その時間を有意義に過ごしたい』

その言葉を聞いて

あたしは

ますます 泣いてしまった。

「イヤだ。離れたくないーーー。」

『いい？ 俺はでいたに帰らなきゃいけないんだ。
また会うから。分かるでしょ？
できるだけ毎日、連絡するから』

カレと残された時間は

あと何時間だね？

あたしは

『クリとつながって

二つの間にか眠った。

起きて我に返った。

うわ、うわ、うわ、もうこんな時間ーー！

あたし達は

駅に行つた。

カレは

博多から

東京へ戻らなきやいけなかつたから。

新幹線で・・・・・。

あたしは見送つた。

離れ離れ、か・・・・・。

ほんとは

ペアリング欲しかったんだけど

言い出せなかつた。

新幹線に カレが乗つて

発車のベルが鳴つて

あたしたちは

時間が許す限り急いで

話したいことを話した。

ドアが閉まる直前、カレが

《ちょっと待つてー》

と言つた。

待つて言つても

新幹線は待つてくれないよ？（笑）

カレはカバンから

ペンを取り出して

あたしにくれた。

《これ、お守り！ 持つてて！

おそろいだよ？ ペアリングじゃなくて」「あん・・・

「あ、あriadとう・・・・・」

おやいの何かを持つてゐとひ、、、、

心がつながつてゐる感じするでしょ？

だからペアリングが欲しかつたんだ。

今日はペア”リング”ではなかつたけれど

あたしは

いつもカレがくれた

銀色のペンを

大事に持ち歩いている

気分が悪くなつたり

緊張したら

そのペンを取り出すんだ

カレが

そばにいてくれる気がするから

安心できるんだ・・・

第2章 夜（前書き）

夜、あたしはカレと連絡をとる「」ことができる。
ほとんどが情緒不安定のとき。

それでもカレは、あたしを安心させてくれる。

カレがドイツに帰つて

あたしは、淋しかつた。

でも

カレは約束を守つてくれた。

結構毎日、連絡とつてくれていた。

チャットで文字を交換しあう。

時差は8時間。日本が午前0時なら、ドイツは午後4時。

あたしが寝る頃、

カレは仕事中。

カレが寝る頃、

あたしは寝てる。

カレは仕事が忙しいヒト。

昨日、あたしは悪夢を見た。

夜、悪夢を見るときは

薬（睡眠導入剤）が合わないときか

トラウマを思い出してしまった時。

あたしは今朝4時

飛び起きてオンライン。

パソコンをつけて、チャットでカレに声をかける。

「アーティストのアーティスト？」

英語で文字を打つ。

昨日は日曜日だった。

カレは、いつもは仕事だけど、その日は久々の休みだつた。

涙が止まらなくて恐かつた。

じぱりへすると返事がきた。

『二十九歳の心のたぐい?』

「恐い夢見た。どうしたらいいか分からぬ。涙が出るよ・・・・・

・

カレも一緒に動搖するかな？

なんて思った。

カレは

『僕の声聞く？ 安心するかも』

と囁いてくれた。

「うん・・・・・・」

あたしは泣きながら、カレと話すことにしてた。

カレは

あたしが何を思い出したか、今回は詳しく聞かなかつた。

それどころか

10月に行つたお祭りの「写真を見せて、楽しいことを

あたしの頭の中に入れてくれた。

恐いものを

退治してくれた。

それでも時々、恐くなつた。

あたしは

「なんか・・・恐いもの、思い出しつづいた」

と言つた。

するとカレは

『一緒に花火見たこと思い出して。僕は楽しかったよ』

と言つてくれた。

あたしもだよ。。。

あたしも、ほんとに

楽しかつた。

どんな場所に行つても

どんなことをしても

花火を見たこと

初めて男のヒトと2人で見に行つたから

あたしはしつかり覚えてる。

しばらく話していたら

眠くなつてきた。

あたしは `webcam` で

自分の映像を見せた。

「新しい服買つたんだ」

と言つて、見せた。

『かわいいね』

とカレは言つてくれた。

「いつも行くお店の店員さんと仲良くなつて、対人恐怖症のあたし
とでも
上手に話してくれるし、コーディネートしてくれるの
」

とあたし。

いつも服を覗つて見せられるほど

お金持けじやないけど

あなたに何か

何かをしたい。

いつもあなたが

何かをして

あたしを安心してくれるか、ひ。

あれこれ話していると

時間は あつとこつ間に過ぎて

お互い眠くなつた。

あたしは寝顔を見せながら

カレと話した。

「あなたが近くにいるみたいで嬉しい」

あたしが言つと、カレも

『僕もだよ』

と言つてくれた。

寝息、聞こえやつたかも・・・。

あたしは瞼は瞼で、ゆりゆり。

夜もゆるゆる。

だけど、夜、カレと連絡とれるとかね

とても幸せ

お互にココヤス//を語つて

ぐっすり眠ることができた。

進展（前書き）

あなたは

あたしに近づいてくれてる？

進展

夜は、苦手。

大好きなカレもそのことは知ってる。

相変わらずあたしのトラウマは簡単には消えてくれない。

いくら病院で話聞いてもらつて

その時は納得できても

なんだかなあ。。

後から思い出しちゃうんだ。

カレは

「ミニ箱を作つて

待つてくれているような人。

遠距離だけど、

チャットやメールすると

《はい、悪いことがあるなら一緒に泣いてしまって》

つて言つてくれる感じ。

あたしは昨夜から今朝にかけて

チャットしながら寝た。

いつも毎日一緒にいてくれると

お兄さんみたい。

それか

カウンセラーみたい。

映画「かぼちゃ大王」を思い出すよ。

精神科医の先生と少女の話。

先生が少女を安心させてくれるんだ・・・。

カレは、

なんであたしと付き合つてんのんだー!?

他に健康で明るくて

かわいい子いっぱいいるの!』。

寝る前に言った。

“ I like you a lot ”

(とっても大好き)

カレも英語で返事をくれた。

” I like you a lot , too (僕も大好きだよ)

こんなこと、めったに口にしないカレが

チャットで

文字で

そう書いてくれて幸せだった。

そして

* k i s s *

とも書いてくれた。

うれしかった。

ね、これって、進展してるんだよね？

あなたは

あたしに近づいてくれてるんだよね？

そう・・・信じてもいい？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8143c/>

Das Ohr! (ダス・オーア)

2010年11月12日20時36分発行